



## デイリー・ジーザス・ニュース #305

金曜日... 苦悩と贖罪の日

イエスの三段階のユダヤ人裁判

ユダヤ人裁判の第一段階：アンナスの前で

ヨハネ18章12-14節、19-23節

=====

12兵士たちとその隊長およびユダヤ人の役人たちはイエスを捕らえて縛り、13<sup>マ</sup>アンナスのところに連れて行った。アンナスはその年の大祭司カヤパのしゅうとであった。

14カヤパは、一人の人間が民のために死ぬのが最善であるとユダヤ人の指導者たちに助言した人物でした。

19その間、大祭司はイエスに、弟子たちとイエスの教えについて質問した。

20「わたしは、自分の教えを変えことなく、世に公然と語ってきた」とイエスは答えた。「わたしはいつも、すべてのユダヤ人が集まる会堂や神殿で教えてきた。何も秘密に語ってはいない。21なぜ私に質問するのですか？私の話を聞いた人に聞いてください。彼らはきっと私が何を言ったか知っているはずですよ。」

22イエスがこう言うと、近くにいた役人の一人がイエスの顔を平手打ちし、「大祭司にこんな答え方をするのか」と問い詰めた。

23イエスは答えられた。「もし私が何か間違ったことを言ったのなら、何が間違っているのか証言するように命じます。しかし、私は真実を語ったのに、なぜ私を打つのですか。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	カヤファの義父、アンナスの家
タイムライン	4月上旬（39ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	E. 金曜日：苦悩と贖罪の日
	イエスの三段階のユダヤ人裁判
タイトル	ユダヤ人裁判の第一段階：アンナスの前で

イエスの逮捕、裁判、そして十字架刑に関わる一連の出来事は、並行して記された福音書の記述から得られるすべての情報を一つの物語に融合させることの大きな価値を示しています。それぞれの福音書記者は、イエスの生涯に対する自身の視点、そして対象とする読者層に最も適した情報を選択し、それに応じて構成しました。そのため、それぞれの福音書には、パズルのように、イエスの物語全体の異なるピースが収められています。

イエスが受けたユダヤ教とローマの裁判がその好例です。すべての記述を調和させると、それぞれの裁判の3段階の展開が明確になり、各福音書の細部が新たな形で生き生きと蘇ります。すべてのピースが完璧に収まるため、記述間の一見矛盾する箇所も驚くほど明瞭に解決されます。

今日の朗読は、イエスのユダヤ人裁判の第一段階、アンナスの前での出来事を扱っています。イエスはゲッセマネの園からアンナスの家へと連れて行かれ、そこでイスラエルの最高評議会であるサンヘドリンの一部のメンバーが集まっていました。アンナスは元大祭司であり、現大祭司カヤパの義父でした。彼は非常に有力な人物で、国家の政治の糸を陰で操り、義理の息子であるカヤパにも大きな影響力を持っていました。アンナスはイエスに不利な証言を集める作業を開始し、それは夜遅くに行われた裁判の第二段階へと続きました。

アンナスに尋問されたとき、イエスは逮捕後、ゲッセマネで語ったのとほぼ同じことを答えた。イエスは常に神殿で、特に受難週の日曜日、月曜日、火曜日には、公に教えを説いていた。アンナスと他のサンヘドリンの人々は、その3日間、イエスの説教を何時間も聞いていた。しかし、非難に値するようなことは何も聞いていなかった。

**「なぜ私に尋ねるのですか？私の話を聞いた人たちに尋ねなさい。彼らは私が何を言ったか知っているはずで」と**辛辣な皮肉を込めて言った。アンナスと、そこにいたサンヘドリンの全員は、イエスが自分たちのことを言っていることをよく知っていた。

イエスは、この「裁判」は最初から偽りであったと強調していた。真実を問うものではなく、イエスを殺す口実を作るための復讐だったのだ。イエスが受けた暴行が証明しているように、この裁判に正義など全く関係がなかった。

役人の一人が、大祭司への不敬を理由にイエスを平手打ちした時、イエスは真実を突きつけられました。主はその役人に、どのような行いをしたのか、そしてその罰を受けるに値するのかを示すようにと命じられました。イエスは再び逮捕されましたが、権威は維持されました。

ユダヤの律法では、裁判中に被告人を殴打することは禁じられていた。しかし、これは多くの暴行の最初の一步だった。この暗い夜には、このような正義の侵害が数多く起こることになる。

応用：

イエスはあらゆる形の偽善を憎まれました。特にパリサイ人に対しては、彼らの霊的・宗教的偽善について何度も非難されました。そして今、この「裁判」において、イエスは司法上の偽善の標的となりました。ユダヤ教の指導者たちは、裁判という形式を利用して、イエスを嘘、侮辱、暴言、そして自らの律法違反で陥れようとしていました。それは紛れもない偽善でした。この茶番劇において、イエスだけが唯一の真実でした。

私たち罪人の間では、真実は大抵歓迎されません。私たちは常に言葉と理屈で現実を操作しようとしています。正義は犠牲者です。だからこそ、真の裁きと正義を行えるのは神だけです。イエスが裁き主として任命されたのは、実に良いことです。

三位一体は愛であり、真実と正義が重要です。私たちは罪深いにもかかわらず、イエスは他人を裁くことをやめ、公正で誠実な対応をするよう呼びかけています。公正を欠くことは、旧約聖書の預言者たちが指摘した最も顕著な罪の一つでした。

あなたは言葉を使って現実を操作したことがありますか？

他者への接し方、彼らについて話す方法によって、正義はどのように損なわれているのでしょうか？何を变える必要があるのでしょうか？いつから始めるのでしょうか？

あなたはイエスの名においてどんな不正と対決する必要があるのでしょうか？